

1 研究の背景と目的

新学習指導要領においては、生徒が相互にかかわり、学び合いながら問題を解決していく学習活動が重視されている。そして、話し合いや発表、論述等の活動をとおして、思考力や表現力を育成することが求められている。しかしながら、従来のリーディングの授業ではそのような双方向の活動が不足し、テキストの内容理解を主たる目的とした個人の活動が中心になりがちな感が否めない。

Klinger,J.K.,& Vaughn,S.(2000)によると、学習者がそれぞれ異なる役割を持ち、小グループ内で協力しながら内容を理解していく相互協力読解学習法(collaborative strategic reading)により、個々の読解力が伸びるという。そこで本研究では、ペアおよびグループによる生徒同士の学び合いをリーディング活動に活かし、読解力を高めるとともに、英語による表現活動をとおして積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育む効果的な方法について考察する。

2 研究仮説

Johnson,D.W., Johnson,R.T.,& Holubec,E.J.(1993)は、協同学習を「自分の学習と互いの学習を最大に高めようとするために、小グループを使って一緒に取り組む学習」と定義している。ただ単にグループに分かれて学習するのではなく、一人ひとりが責任を持ってグループの目標に向かって協力し合うことにより、助ける・教える機会の多い生徒と、助けてもらう・教わる機会の多い生徒の双方にとって学習効果があると考え、以下を本研究の仮説とする。

2.1 研究仮説

相互協力を促進するリーディング活動を行うことによって、文章理解や表現活動に対する取り組みが意欲的になり、生徒一人ひとりの読解力が向上するであろう。

3 研究方法

3.1 事前調査

- ・文献研究

3.2 授業実践

- ・ペアワークやグループワークを中心とした内容理解を促す指導
- ・内容理解をもとにした英語による表現活動の指導

3.3 検証方法

3.3.1 單元ごとの内容理解度の測定

3.3.2 質問紙調査による学習に対する意識・意欲の変化の調査

4 研究内容

4.1 ペアワークにより内容理解を促す指導

卯城(2009)は、読んで理解した文章を、そのテキストを見ないで相手にわかるような表現で伝える「再話(retelling)」という活動は、読み手の理解を深めることにつながり、どの程度文章を読めたのか確認するうえで有効であると論じている。そして、そのような言語活動は私たちが日常よく行っている行為であるということ、また学習者が主体となって活動に取り組むことができるということをその魅力として挙げている。

そこで、Hythecker,V.I., Dansereau,D.F.,&Rocklin,T.R.(1988)らが開発し、Jacobs,G.M., Power,M.A., Inn,L.W.(2002)が部分的に採用したペアワークの技法 SUMMER を応用して、テキストの理解を深める指導ができないかと考えた。“SUMMER”という名称は、以下の活動の頭文字を合わせたものである。

- (1)雰囲気を作る。(Set the mood)
- (2)黙読によって内容を理解する。(Understand by reading latently)
- (3)一人がテキストを見ずに重要な点を述べる。(Mention key ideas)
- (4)パートナーがテキストを見ながらモニターする。(Monitor)
- (5)2人で内容に広がりを持たせる。(Elaborate)
- (6)復習する。(Review)

4.2 内容理解をもとにした英語による表現活動の指導

各単元末に、読み取った内容を発展させた表現活動を行う。その際にも、互いの意見や考えを読んでコメントを返す、メモを取りながら聞いてまとめる等、双方向の活動を多く取り入れる。グループによる話し合いでは進行係や質問係などの役割を決め、それぞれが最低一役果たしながら議論を進めるようにするなど、どの活動においても生徒一人ひとりが自己の役割を明確に認識した上で活動できるようにする。

4.3 検証

4.3.1 内容理解度の測定

各単元末に正誤判断式のテストを行い、テキストの内容理解度を測る。

4.3.2 質問紙調査による学習者の意識調査

リーディング活動に協同学習を導入することに対する学習者の意識・評価をアンケート形式で調査する。

5 研究計画

5.1 対象生徒

平成 22 年度	3 年生 3 クラス
平成 23 年度	1 年生 3 クラス

5.2 指導科目及び教科書

平成 22 年度	リーディング (4 単位)	Element English Reading (啓林館)
平成 23 年度	英語 I (3 単位)	PRO-VISION ENGLISH COURSE I (桐原書店)

5.3 指導計画

平成 22 年 6 月～8 月	先行研究・文献研究調査
平成 22 年 9 月～ 平成 23 年 1 月	授業実践① (試行実施) ・ペアワークにより内容理解を深める指導

	・グループディスカッションの指導 ・ペア、グループによる音読の指導 ・アンケート調査の実施と結果分析
平成 23 年 2 月～3 月	研究計画の見直しと修正
平成 23 年 4 月～10 月	授業実践②および検証 ・ペアワーク，グループワークにより内容理解を深める指導 ・読解テスト（4 月，7 月，10 月） ・アンケート調査の実施と結果分析

6 研究実践

6.1 研究実践①（平成 22 年 9 月～平成 23 年 1 月）

6.1.1 ペアワークにより内容理解を促す指導

まず，新出語導入，リスニングとスキニングによる Q & A（教材例 1 の【1st Reading】）までを一斉指導で行う。その後ペアを作り，以下の手順で内容把握を主眼とするリーディング活動を実施する。

- (1)セクションに分けたテキストの内容を，個々の生徒が黙読によって理解する。テキストの長さに応じて制限時間を設定する。
- (2)一人がテキストを見ずに，その箇所の重要と思われる点を述べる。併せて，理解しにくかった箇所も挙げる。
- (3)パートナーはテキストを見ながらそれを聞き，正しく言えた点を確認し合うとともに，情報の誤りや抜け落ちを指摘する。セクションごとに(2)と(3)の役割を交代する。
- (4)2 人でテキストを見ながら，さらに理解を深める。また，感想や意見を話し合ったりする。この段階で内容理解を問う設問（教材例 1 の【2nd Reading】）をとおして理解度を確認する。
- (5)テキスト全体の要約文を個々に作成し，2 人で互いに批評し合う。（教材例 1 の【3rd Reading】）または，4～6 人のグループを編成してセクションごとに担当を決め，個々が要約したものをグループで協議しながら全体として 1 つにまとめる。

6.1.2 内容理解をもとにした表現活動の指導

読み取った内容を発展させて，グループディスカッションやディベート等の表現活動を単元ごとに行う。1 グループ 4 名構成とし，進行係や質問係，賛成・反対意見を述べる係などの役割（教材例 2 参照）を決めて，自分自身の意見を述べる以外に，それぞれが必ず自己の役割に応じた発言をするルールで議論を進めることとする。便宜上，座席の位置によって 4 名をそれぞれ A・B・C・D と指定し，どのグループも同じ位置の生徒が同じ役割を担当する。それにより，生徒が自身の担当する役割を果たしているかを，机間指導する教師が把握しやすくなる。話し合う項目ごとに役割をローテーションすることで，生徒は 1 回の活動中に複数の役割を担当する。そのようにして，話し合いで頻繁に使用する表現を身につけながら，建設的な議論の進め方を学んでいく。

教材例 1

【1st Reading—Outlining Practice】

[1]Where were the ancestors of the Maori from?

[2]When Abel Tasman came to New Zealand, what did the Maori do?

[3]Why did British people go to New Zealand?

【2nd Reading— True-False Practice】

1. About a thousand years ago, the ancestors of the Maori came to New Zealand from Southeast Asia. ()

⋮

6. The Treaty of Waitangi in 1840 enabled the British to place New Zealand under their control. ()

【3rd Reading—Summarizing Practice】

Lesson 8 New Zealand: Paradise under Pressure (Element English Reading)

教材例 2

【Small Group Discussion】

Discussion Points:

1. When you go and buy food, do you want to avoid genetically modified food? Why or why not?

My Idea	
---------	--

2. What is important for you when choosing food? ex) price / taste / safety

My Idea	
---------	--

3. What should we do to supply the world with enough food?

My Idea	
Our Ideas	
(Notes)	

ROLE(S)	EXPRESSIONS
1. Leader	Let's talk about ... / Let's move on to ... / Any more ideas? / I want to hear from (Name), too.
2. Supporter	I really like your idea because ... / I agree with you because... / You helped us solve this problem.
3. Questioner	Do you mean ~?/ What do you mean (by ...)? / Why do you think so?
4. Challenger	That is an interesting idea, but ... / I can see your point, but ... / That may be true, but ...

Lesson 7 Genetic Engineering and Food Production (Element English Reading)

6.1.3 ペアワーク，グループワークによる音読指導

パラレル・リーディングやバズ・リーディングなどの全体・個人での音読をした後，ペアまたはグループでさらに音読練習し，読む速さ・正確さを高めて読解力の向上につなげる。以下のいずれかのやり方で，またはいくつかのやり方を組み合わせて行う。

(1) ペアによるモニター音読

読み役と聞き役を交代して練習する。読み役は，聞き手を意識して音読するように心掛ける。聞き役は，パートナーが読み終えるまでにかかった時間を教室の時計で測る。読み誤った箇所があった場合には，それを自分のワークシートまたは教科書の本文に記録しておいて，あとで伝える。

(2) ペアによるクローズ音読

本文にブランクを空けたワークシートを用いて，読み役と聞き役を交互に務めながら練習する。パートナーは相手がきちんと読めているかモニターする。読み手がブランクに入る語がわからない場合，聞き手はヒントを与え，それでもわからなければ答えを教える。

(3) ペアまたはグループによるリレー式音読

2～4人で一文ずつ交代しながら長文を上手に速く音読する。全文を読み終えるのにかかる時間を競う。

(4) ペアまたはグループによるシャドーイング

1人がリーダーとなって，テキストを見ながら音読する。パートナーやグループのメンバーはテキストを見ずにそれを聞き，後について読む。読み終えた後，聞き取れなかったために正しく音読できなかった箇所や自信を持って読めなかった箇所を各自で確認する。全員が必ず一度はリーダーを務めるようにする。

6.2 研究実践②（平成23年4月～10月）

学年共通のワークシートを使用し，原則として英語による同一の指導法により授業を行っている。したがって，担当者に関係なくどのクラスでも同じ授業展開がなされている。ワークシートは担当者が輪番で案を作成し，互いに意見やアイデアを出し合いながら完成させたものを使用している。ペアやグループでインフォメーションギャップを埋める等の活動が授業の中心となるため，生徒はコミュニケーションの必然性を感じ，自己の役割を認識した上で相互協力しながら学んでいく。

6.2.1 ペアワークにより内容理解を促す指導

2種類のワークシートを用意し，ペアを組む生徒同士が別々のシートを持つように配付する。新出語導入，リスニングによるQ&Aまでを一斉指導で行った後，生徒はリスニングの解答を利用したスピーキング活動をペアで行ってテキストの概要を把握する。次に，引き続き同じペアで，さらに詳しい情報を求めるリーディング活動を行う。（教材例3参照）2種類のワークシートにはそれぞれ異なる質問が用意されており，互いのシートを見せ合わずに行う問答や説明を通じて，生徒は具体的な内容を理解していく。自分一人ではわからないところをパートナーと助け合いながら解決し，それでもわからないところは別のペアの協力を求め，なおも不明瞭な部分はクラス全体で考えるというようにして，理解することが難しい箇所や重要と思われる箇所を最終的に全員でシェアして活動を終える。

[2]READING COMPREHENSION

Sheet A

(1)Reading for details

- (1)Read the questions. **SW** ...solo work
 (2)Read the letter. Underline the sentence(s) you need to answer the questions. **SW**
 (3)Ask your partner the following questions to see if the two of you have the same ideas. **PW** ...pair work

Q1. What changed the girl?

Q2. What did the atomic bomb take away from the people of Hiroshima?

Q3. In her imaginary world, what did she pass to people around her?

Q4. What does she want to shout? Q5. What does she believe John's world will become?

Dear John,

You left us before I was born, but now I would like to write to you.

I went to Hiroshima last summer. Before I went there, I was not so interested in war or the history of Hiroshima. When I visited Hiroshima, I learned a lot about its history. That experience changed me.

⋮

[2]READING COMPREHENSION

Sheet B

(1)Reading for details

- (1)Read the questions. **SW** ...solo work
 (2)Read the letter. Underline the sentence(s) you need to answer the questions. **SW**
 (3)Ask your partner the following questions to see if the two of you have the same ideas. **PW** ...pair work

Q1. What experience did the girl have in Hiroshima? Q2. What did people lose in the war?

Q3. In her imaginary world, how do people make a circle in the square?

Q4. Whose message does she think may reach the whole world?

Q5. Why will she continue to sing John's song?

Lesson 1 Imagine the World of Imagine(PRO-VISION ENGLISH COURSE D)

6.2.2 グループワークにより内容理解を深める指導

テキストで学習した内容に関する疑問点を解決したり、さらに新たな情報を得たりする活動をグループで行う。その一例として、グループ内で役割を分担してテキストに関連した発展課題に取り組む活動がある。4種類の資料を4名で分配して担当を決め、自分が担当する資料を読み込み、他のメンバーに英語で伝達する「再話」活動である。この活動では、割り当てられた資料の内容に関して、同じグループのメンバーに質問したり助力を求めたりすることができないことをルールとする。その代わりに、一旦グループを解体して同じ資料を担当する生徒同士が集まり、協力して疑問点を解決することは可とする。個人での活動後、再び元のグループを結成し、それぞれがグループのメンバーにわかるような表現で要点を伝達する。発表者以外の生徒はメモを取りながら発表を聞き、質疑を交えながら、知り得た情報を整理して自分のワークシートにまとめる。

Information ①

John Lennon was born and raised in Liverpool. His first band was "The Quarrymen" and later it changed the name into "The Beatles" in 1960. . . . Lennon showed a ^{*1}rebellious nature and ^{*2}acerbic with in his music, his writing, his drawings, on film, and in interviews, and he became ^{*3}controversial through his ^{*4}political and peace activities. He moved to New York City in 1971, where he ^{*5}criticized the Vietnam War. His songs were often sung in the anti-war movement.

NOTES

*1: rebellious nature (adj+n):

character of saying no to leaders or the traditional ways of doing something

:

*5: criticize (v): to say something wrong or bad about something

Points of information

1. When and where was he born and raised? Is he still alive?
2. Why is he so famous?
3. What kind of person is he?

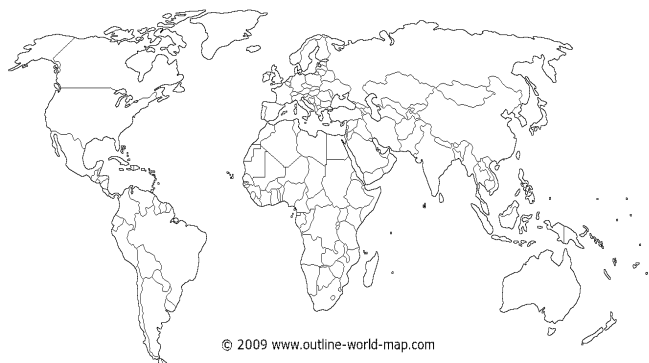
Information ②

Number of victims in wars and conflicts

Wars / Conflicts	Period	Number of Deaths	Deaths of Non-soldiers (%)
Chinese Civil War	1946-50	1,000,000	50
Korean War	1950-53	3,000,000	50
:	:	:	:
Second Sudanese Civil War	1984-2004	1,500,000	97

Points of information

1. Where did the wars and conflicts break out? Mark the places in the map.
2. Even after 1945, how many people were killed in wars?
3. How many citizens (non-soldiers) were killed so far? You need to calculate.



6.2.3 内容理解後に行う表現活動の指導

全ての単元においてではないが、ポストリーディングでも生徒相互のかかわり合いを要する表現活動を行っている。次に挙げる例は、読んだ物語に登場する人物間のかかわり合いになぞ

らえ、クラスメートが書いた内容に対するサンキュー・ノート（カード）を作成する活動である。ここでは、新出の文法事項である仮定法を用いることを条件としている。以下はその手順である。

- (1)配付されたカードを半分に折り、右側半分のスペースに、自分が日常することのできるささやかな行動を英語で1つ書く。（無記名とする。）
- (2)いったんカードが回収され、シャッフルした後、再配付される。万一自分の書いたカードが配付された場合は、別のものと交換してもらう。
- (3)カードを読み、クラスメートの書いた内容に対して“Thank you. Without～,”で始まる感謝のコメントを、カードの左側半分のスペースに記入する。（こちらも無記名とする。）

生徒作成カード例（原文のまま）

Thank you! Without your action, we would waste electricity.	I switch off the light when there is no student in the classroom.	Thank you! Without you, your mother would be very busy.	I make lunch every day.
--	--	---	----------------------------

- (4)全てのカードが教室の壁に数日間掲示され、生徒は自分の書いたカードにどのようなコメントが寄せられたかを見るとともに、他の生徒が作成したカードにも目を通す。

7 研究評価

7.1 単元ごとの内容理解度の測定（平成23年4月，7月，10月）

各単元末に正誤判断問題10問（10点満点）に解答する形式の読解テストを行い、テキストの内容理解度を測定した。テストの問題は、教科書出版社が作成したものを基に作成・出題しているため、その難易度に大きな差はないと考えられる。

年度スタート時から同一の指導方法による授業を展開した都合上、プリテストおよびポストテストを実施して前後の結果を比較するのではなく、この指導法が浸透するにしたがって生徒のテキスト理解度にどのような変化が見られるかを測ることにした。

7.1.2 テスト結果

生徒がテストに向けて事前に特別な準備を行うことによって、授業中の活動以外の要因がテストの結果に影響することを極力避けるために、実施の予告は特にせず、毎回実施直前にテキスト全体を短時間でさっと読み返す程度の準備のみでテストを行った結果、平均点に次のような変化が見られた。

表1 読解テストに関するデータ：平均点

(n = 124)	平均点 (/10)
4月	5.8
7月	6.7
10月	7.4

単元が進むにつれて徐々に英文の量や使用語句の難易度が増すにもかかわらず、平均点は上昇傾向を示した。4～7月間の平均点の伸びが大きいのは、生徒が活動をとおして情報をインプットし、テキストの概要を理解することに慣れてきたことが主な要因であると考えられる。

その後も緩やかではあるが点数が伸びていることから、この指導法が生徒に定着した印象を受けた。

7.2 質問紙調査による学習者の意識調査

7.2.1 平成 22 年度に実施したアンケート調査の結果および考察

平成 22 年度の指導後にアンケート調査を実施し、グループ（ペア）による生徒同士の学び合いをリーディング活動に取り入れることに関する意識調査を行った。

表 2 グループ（ペア）による学び合いにおいて多かったことはどれですか。

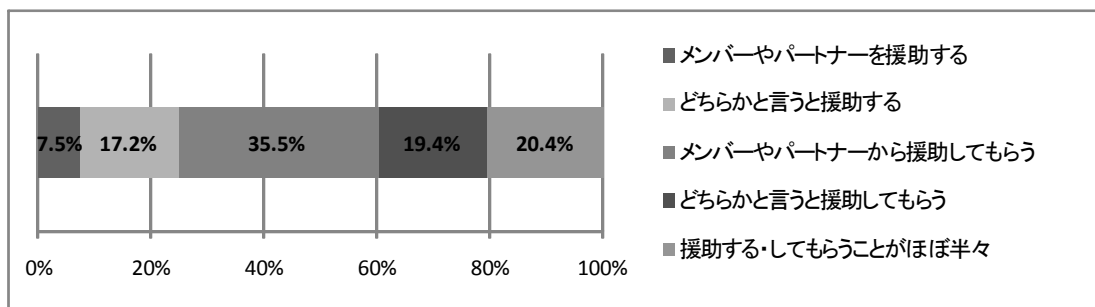


表 3 リーディング活動の中にグループ（ペア）で学び合う活動があるとよい。

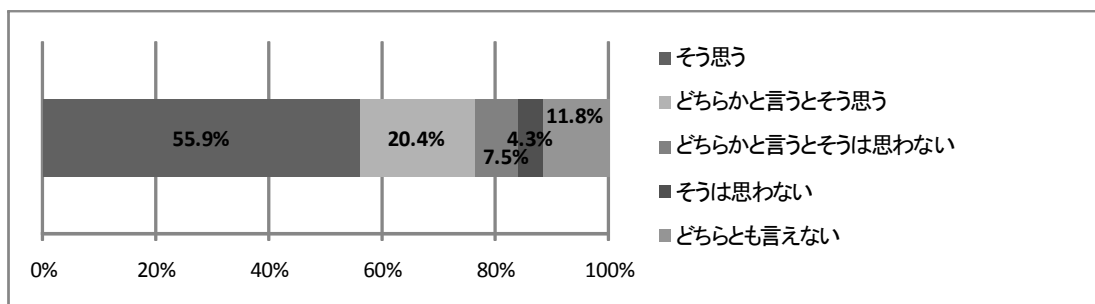


表 2 で「援助してもらう（半々を含む）」と回答した生徒の割合と、表 3 で「学び合いの活動があるとよい」と思っている生徒の割合がほぼ一致している。これは、援助してもらう生徒は学び合いがあるとよいと感じているが、援助する立場の生徒はその必要性を感じていないということを意味しているのだろうか。そこで、表 2 で「メンバーやパートナーを援助することが多い」または「どちらかと言うと援助することが多い」と回答した生徒に限定して、表 3 で示した項目についての統計をとって見たところ、次のようになった。

表 4 リーディング活動の中にグループ（ペア）で学び合う活動があるとよい。

（学び合いの際に教える立場になる機会の多かった生徒に限定した集計結果）

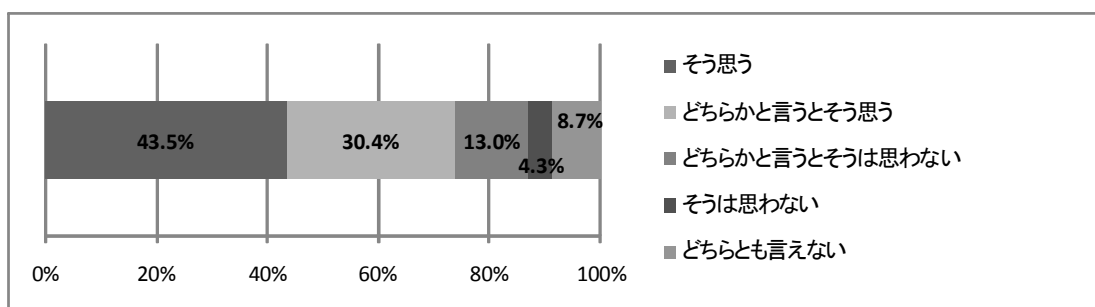


表 3 と表 4 を比較してみると、学び合いの活動に対して肯定的、ならびにどちらかと言うと肯定的な考えを持つ生徒の占める個々の割合には違いが見られたが、その 2 つを合計した割合

はどちらも全体の約4分の3を示し、両者にさほどの差はなかった。このことから、援助してもらい機会の多い生徒ばかりが一方的に学び合いの活動を必要と感じていたわけではなく、援助する側に回ることも多い生徒もそこに意義を見出していたことがうかがえる。

次に、生徒が学び合い活動のどのような点がよいと感じていたのかを調査した。

表5 学び合い活動のよいところは何ですか。(複数回答可)

	回答数
お互いにわからない点などを聞きやすい	59
リラックスした雰囲気で学習できる	49
友だちと協力した方が能率よく学習できる	32
話し合ううちに英語や内容に関する興味が深まる	17
自分の役割を果たそうと責任感をもって学習する	17
一斉授業と違う形態である	11
その他（自由記述） ・友人と協力したことが印象に残って、英文の内容が頭に入りやすくなった ・友だちはこんなにできるんだ、自分も頑張ろう！という気持ちになれる ・自分の弱点が見つけられる ・協力することで互いの仲が深まる ・グループだと話しやすい	

回答結果より、わからないことを恥ずかしがらずに「わからない」と言える環境や雰囲気を作り出すことができ、なおかつ授業時間内にその疑問点を解決しながら学習を進めることができることが学び合いのよい点と受け止められている。実際、教師がクラス全体に対して質問はないかと問いかけてみても、その場で手を挙げて質問する生徒はごく少数であろう。プライドに邪魔されることなく疑問点を共有できることで、生徒は安心して学習に臨むことができるようである。

7.2.2 平成23年度に実施したアンケート調査の結果

表6 英語の授業に対する意識調査（平成23年5月実施）

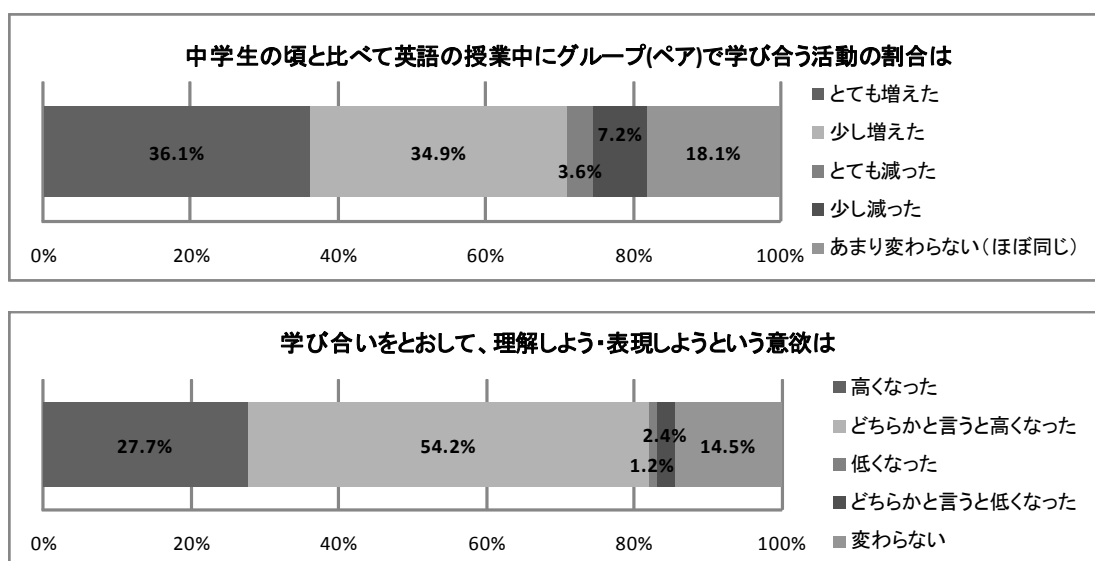
	まったく そう思う	そう思う	そう思わない	まったく そう思わない
英語を聞く活動は楽しい	29%	49%	21%	1%
英語を話す活動は楽しい	33%	47%	18%	2%
英語を読む活動は楽しい	34%	46%	20%	0%
英語を書く活動は楽しい	28%	46%	25%	1%
本文に関連する資料を読む活動は面白かった	24%	61%	14%	1%
グループ内で4人が別々の情報を伝達し合う活動は面白かった	32%	55%	12%	1%

20～25%の生徒は、英語を使用する活動に対してそれほど意欲的とは言えないという結果が得られた。平均すると1グループに約1名そのような生徒がいるわけであるが、教材例4で示したようなグループ内で役割を分担し合うリーディング活動を取り入れることによって、意欲的な姿勢で活動に取り組む生徒の割合が増加する傾向にあることがわかった。

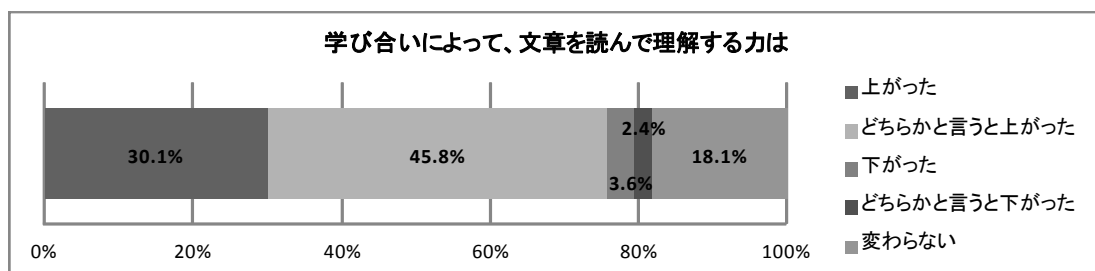
このスタイルの授業を始めて5ヶ月程たった時点で、生徒がこのような学び合いによる英語学習に対してどのように感じているかを調査した。約7割の生徒にとっては、中学校で受けてきた授業と比較して、互いに協力したり教え合ったりする機会が増えている。そして、意欲と

読解力の両面において、自身の伸びを感じている生徒が多いという回答が得られた。

表7 英語の授業における学び合いに対する意識調査（平成23年10月実施）



自由記述の回答によると、「どう表現したら相手に伝わりやすいかを考えるので表現力が上がる」「伝えようと思うと、表現や発音をよくしようとする」等が意欲向上につながっていることがうかがえる。



自由記述のアンケートでは、「一人では理解できないことが理解できるようになる」「複数で助け合って学ぶ方が効率がよい」「他人の意見を聞くと参考になるし、視野も広がる」等の記述が多かった。

8 結論

平成22年度ならびに23年度に実施した授業実践に基づく質問紙調査の結果から、協力して互いの疑問を解決しながら進めていく学習形態に対して、「教える・教わる」の立場に関係なく、大半の生徒が学びやすさや学習後の達成感を感じていると読み取ることができる。また、聞き手や読み手を意識した英語による表現活動の導入が、自己の言語技能や表現力をさらに高めたいと思う大きな契機となり、生徒のさらなる学習意欲の向上につながっていることが確認できた。このことにより、仮説のうち、生徒同士の学び合いを促進する活動を授業の中心に据えることによって、生徒の文章理解や表現活動に対する取り組みが意欲的になるであろうという点については支持されたと考える。

また、平成23年度に実施した読解テストの結果より、ペアワークやグループワークを中心としたテキスト理解を促す指導の効果が数値的な面から検証された。さらに、テストだけでは測りきれない部分に関しては、文章理解力が上がったことを多くの生徒が実感しているという

意識的な面での裏付けを質問紙調査から得ることができた。ゆえに、相互協力を促進するリーディング活動は読解力の向上にもつながるであろうという点についても本仮説は支持されたと考える。

今回の研究をとおして、今後一層求められる生徒の英語学習に対するモチベーションの向上に、延いては英語力の向上に、生徒同士が互いを高め合いながら学習していくこのような授業のスタイルが有効であるという結論が得られた。教師から生徒への一方通行状態に近い言語活動や、教師・生徒間で行われる言語活動から、生徒相互間で行われる活動へ比重を移していくと、他者とコミュニケーションを図る頻度や必要性が高まる。授業中の生徒の様子を観察していて、そのようにすることがコミュニケーションを図ろうとする態度の育成に通ずると実感できた。

その一方で、今後取り組んでいくべき課題を発見することもできた。それは、授業全体の効率が悪くならないように、個々の活動の手順やそれにかかる時間を十分検討することである。ペアやグループで活動する時間に加え、クラス全体で意見や要点の確認や分かち合いを行うなど、学習過程を丁寧に段階化すればするほど当然多くの時間がかかる。アンケートの回答には「時間をかける割に能率が上がらない」「一人でも十分できる」等の意見も一部にあり、学び合いの学習効率に関する生徒の感じ方は一様ではないことがわかった。コミュニケーション活動そのものに対してあまり積極的でない生徒であっても自律的・主体的に学習活動に参加できるよう、どのような場面でどのような活動を組み入れるのが効果的であるのかよく吟味しながら、さらに研鑽を積んでいきたい。

引用文献

David W. Johnson, Roger, T. Johnson, Edythe Johnson Holubec (1993). *Circles of Learning: Cooperation in the classroom* (4th ed.). Interaction Book Company.

George M. Jacobs, Michael A. Power, Loh Wan Inn (2002). *The Teacher's Sourcebook for Cooperative Learning: Practical Techniques, Basic Principles, and Frequently Asked Questions*. Corwin Press, Inc.

門田修平・野呂忠司・氏木道人（編）『英語リーディング指導ハンドブック』（2010）大修館書店。

Klinger, J. K., & Vaughn, S. (2000). The helping behaviors of fifth graders while using collaborative strategic reading during ESL content classes. *TESOL Quarterly*, 34, 69-98.

静哲人（編）*Reading in Action*（2009）金星堂。

高橋寿夫 「授業の活性化に向けてーグループによる学生参加型授業の実験的考察」『外国語教育フォーラム』第7号 pp.23-34（2008）

卯城祐司（編）『英語リーディングの科学ー「読めたつもり」の謎を解く』（2009）研究社。